

近世の海運と松江

島根県古代文化センター 特任研究員
中安 恵一

はじめに

- ・近世日本海海運の発展
17世紀末に河村瑞賢による西廻り航路整備 →宇龍・美保関の隆盛
- ・地元松江廻船の活動は？

1. 松江廻船の遠国活動

- (1) 北陸地方 (越後・能登)
 - ・廻船問屋の記録「御客入船帳」：入津した諸国廻船との取引記録
 - ・19世紀以降における多数の松江廻船【表1】
 - 廻船：町方が多く、12～18反帆 (150～500石積) →中型廻船中心
 - 参考) 出雲 (十六島・鵜峠・猪目・杵築・田儀) 廻船：12～25反帆 (150～1,000石積)
 - 船頭：町方廻船の沖船頭 →浦方 (特に加賀浦) から雇入
 - 積荷：鉄・木綿・塩・石材・陶磁器・素麺・太白など →雲州国産物を中心に多種多様

(2) 九州地方 (肥前伊万里)

【史料1】「戸渡島社祭祀行事略記」 文政三年辰正月 一、拝殿前石大獅子一對		願主出雲松江 森脇儀兵衛 同猪目浦 飯島与左衛門 同杵築	
右雲州旅客方寄附 辰三月四日ニ築立 申候		山本庄三郎 同 平兵衛 飯山喜右衛門 永見勇兵衛 三原武左衛門 松井源兵衛 藤井半兵衛 青木政八 藤井助五郎 別取武藏 糸賀文蔵 渡辺武兵衛 北井寛兵衛 同 甚右衛門	

- ・文政3 (1820) 年、雲州商人による伊万里・戸渡嶋神社への大獅子寄進【史料1】
→松江・森脇儀兵衛、猪目浦・飯島与左衛門ら計16名
- ・伊万里陶商の大福帳や港関係史料に雲州商人の取引記録¹
 - 文化4：筑前船越・伊勢屋善七、焼物購入し雲州・与左衛門船で出雲へ
 - 文化8：筑前船越・大黒屋幸次郎、焼物購入し雲州松江・森脇屋船で出雲へ
- 安政期：平左衛門、福右衛門、森脇屋喜右衛門
- 文久3：惣助590俵 (鉄の販売も)、儀兵衛599俵、佐右衛門135俵、平左兵衛692俵、勘三郎2296俵
→肥前陶磁器 (伊万里・有田・唐津・波佐見など) の積極的な移出
- ・伊万里における雲州専門宿【表2】

⇒日本海域陶磁器流通における屈指の担い手

2. 小型廻船の活動

- (1) 経営・交易圏
 - ・島根半島沿岸の諸浦の廻船【表3】 →38～150石積 (2～4人乗) の小型廻船
 - ・小型廻船の年間活動サイクル【表4】 →隠岐往来専門／遠国、断続／連続活動

◎隠岐往来

- ・隠岐産物 (木材・海産物・牛馬) の松江への輸送
- ・牛馬の北浦への集荷 (牛馬はその後島根半島各地・伯耆 (米子・大山) へ) 【史料2・3】²

【史料2】「御用日記」高井与之助文書 奉願口上之覚 隠州より北浦之内稲積へ渡り牛馬、手角より伯 州へ渡し牛馬共、鞭先銀壹疋ニ付裏半銀五分充、 右両所ニ毎歳年行司相立、多古・手角両所詰米 留御役人中御改を以取立来ニ御座候 (……)		【史料3】「御用日記」高井与之助文書 奉願御事 一、嶋根郡北浦之内稲積、長十・恵兵衛・新助・ 為十・啓十・寛右衛門・平太郎・甚助・政十、 以上九人宗旨代々禪宗、同浦北禪寺旦那ニ 年々北浦宗門御改帳付、紛無御座候、然処、 此度馬口労働売ニ付隠州江渡海仕度旨、願出申 候間、往来御手形寄通宛被下置候様奉願候、 全先方二居住ハ不仕通ひ商売仕候間、願之通 被為仰付被下候様、宜布御願被仰上可被下 候、則寺手形取差上申候、以上 (文政三) 辰二月	
下郡 善次殿 与頭 間助殿	年寄 祐三郎 庄屋 孫三郎		

¹ 『伊万里市史 陶磁器編古伊万里』313、517、521頁、前山博『伊万里焼流通史の研究』829～832頁。
² 高井与之助文書 (島根町誌編集室冊子目録No. 1-32)。

◎遠国交易

- ・若狭や尾道への航行【表3】
- ・寛政9（1797）年、松江廻船難船の事例³
森山屋吉郎右衛門船（4人乗）出雲鉄285束を地元鉄山師から積受け大坂へ、移送中瀬戸内海で難船

⇒多様な稼業「地廻り輸送から遠国交易まで」

（2）加賀浦・福田屋定五郎と廻船業

年次（西暦）	年齢	出来事
天明元（1781）	28	田畑7ヶ所と家居屋敷を譲り受け分家
天明 2（1782）	29	百姓をしつつ、「万小商」（豆腐 酒 酢 醤油類 大小豆 麦 粃など）開始
天明 8（1788）	35	佐陀川開削を契機に小船を思い立つ
寛政 2（1790）	37	30石積の中古船購入、廻船経営に乗り出す（松江城下への薪の積廻し）
寛政 5（1793）	40	70石積の中古廻船購入（尾道・大阪へ干鰯商売）
寛政 8（1796）	43	室座購入
寛政 9（1797）	44	船問屋株買う（灘屋）
文化元（1804）	51	100石積廻船新造（古船は売却）
文化14（1817）	64	庄屋役（～71歳）、船問屋株買う（表屋）
天保 2（1831）	78	御米日帳宿役

表5 福田屋定五郎略年表⁴

◎廻船業の開始、発展

- ・分家後の「万小商」 →家業探し
- ・廻船経営の開始は佐陀川開削が契機
- ・廻船経営の拡大
→薪の積廻しは「相応之利も有之、是商売之元手成」⁵
→30石積から70石積廻船に、大坂・瀬戸内へ干鰯商売
- ・堅調な経営
→室座・船問屋株の購入、100石積廻船の新造など

³ 香川県直島・三宅家文書730（瀬戸内海歴史民俗資料館蔵）。

⁴ 福田屋文書「天明元歳丑十二月書印置」「八十式才一通書印置事」「財宝繁栄田畑求大福坪付覚留帳」（島根町誌編集室冊子目録No. 1-41）。

⁵ 「八十式才一通書印置事」。

◎福田屋の土地【表6】⁶

- ・分家時に譲り受けた田畑
→6畝余（田方3畝、畑方3畝3分）
- ・文化年間に目立つ土地集積
→廻船規模拡大・船問屋経営開始期と概ね一致

（参考） 30石積中古船：30貫文
70石積中古船：160貫文
100石積新造船：170貫文
船問屋株：110貫文

→廻船規模の更なる拡大は選ばなかった

◎生業選択枝の中の廻船業【史料4】

- ・自身の家業の回顧と教訓
（分家後の家業探しの経験）
→「百姓第一」としながらも、家計を支える諸商売を模索

⇒廻船業への参入のありかた

年次	西暦	買入地 (畝余)	金額 (銭：貫文余)
天明元（分家時）	1781	6	-
天明 4～天明 8	1784～1788	10	67
寛政元～寛政 5	1789～1793	1	13
寛政 6～寛政10	1794～1798	10	130
寛政11～享和 3	1799～1803	6	330
文化元～文化 5	1804～1808	72	1,500
文化 6～文化10	1809～1813	10	350
文化11～文政元	1814～1818	34	760
文政 2～文政 5	1819～1823	1	350

表6 福田屋の土地買入状況

【史料4】「八十式才一通書印置事」福田屋文書
（……）何卒不孝仕候而不相成与心得意、諸商売ニ
心懸候得共思付無御座候故、南無氏神八幡宮天満宮
へ氣願を掛、百姓第一色々豆腐・酒・酢・醤油・米・
大小豆・麦・粃、品々商売仕候得者、神仏両親之御
恵有之候哉、又者我が運歟（……）上へ見るな下タ
見て暮せ、わが子孫人のふり見て我がふり猶せ、此
家財先祖大事ニ守なら家居も続けば我ぞ嬉敷、傳
口・大酒・とら打は我が子ニ而も此家財えするべか
らず、太鼓・笛・三味線・碁・将碁之儀も不持江事
ニ候、百姓第一相守、仕附、こやし手人無油断打口
り、念入可仕事、

おわりに

- ・廻船経営の多様さ（規模、経営手法）
- ・大小さまざまな廻船が密接に関係し合い、また重層的に存在
⇒船の「大企業」と「中小零細企業」、それぞれに目を向ける必要性

メモ

舟財船の建造費は1石当り1両、千石船で約千両と概算されている。（江差HP）
金1両＝銭4貫文
100石積 金100両 銭400貫文
300石積 金300両 銭1200貫文

⁶ 注4に同じ。